

景観まちづくりとはどのようなことか

埼玉大学 深堀清隆

景観づくりがなぜ大切か

景観づくりがなぜ大切か



セントルイスの団地(中低所得者層向け高層団地)

1954年に開発された団地
建築の賞をとるようなデザイン

完成から数年後に環境が劣悪化、犯罪発生率増加
1972年に取り壊し



まず、居住環境に問題があったが
周辺から浮いた建築デザインは
環境イメージの悪さに繋がり
その景観は貧困の象徴と見なされた

住む場所への愛着や誇りの喪失
コミュニティの崩壊

景観づくりがなぜ大切か

地域の人々が安心して、居心地よく暮らすことのできるコミュニティ
はソーシャルキャピタル(社会関係資本)によって支えられる

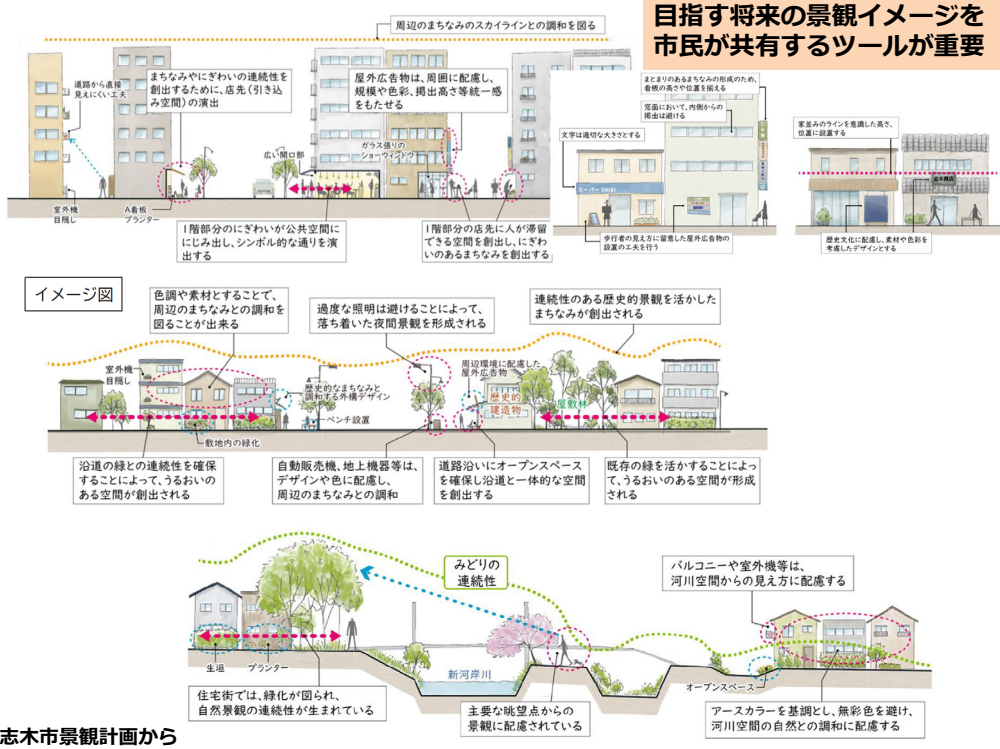
人々の信頼関係や結びつきは、
それをもたらす活動や機会、それを支える場所が必要であり
それは、**良いまちの環境**によって育まれる

良い環境かどうかの印は、その「**景観**」に如実に表れている

暮らしの場所は、民間の建物や自然環境、公共施設、公共空間
がつながりあって成り立つ。そのつながりのあらわれが「**景観**」

まちの姿形を、様々な人々が、**共通の想いをもって、協調しながら**
時間をかけて育てる。その模範が、**景観条例・景観計画**

**目指す将来の景観イメージを
市民が共有するツールが重要**



志木市景観計画から

街並みの景観のポイント

街並みとは、「街路」の景観

街（公共や民間の施設・土地利用）
路（行政が整備する道路・インフラ）

街路景観という言葉自体、つながりを表すもので
様々な主体が連携・協調しないと、良い景観にできません。

良好な街並み景観のポイント

見晴らし 遠景と近景（視点場：風景を見る場所）
が視覚的に良いつながりを有すること

困まれ感 道路をはさむ両側の街並みが、
視覚的に良いつながりを有すること

生活感と居心地 歩行者のいる視点場に居心地のよい生活の
場が生き活きと感じられること





広告物・標識や電線電柱、照明柱は、視線を近景に閉じ込め、
遠方の見通しを損なっていく
広告物などを、すっきりと整理整頓して、街並みの景観を整える

良好な街並み景観のポイント

見晴らし 遠景と近景（視点場：風景を見る場所）
が視覚的に良いつながりを有すること

囲まれ感 道路をはさむ両側の街並みが、
視覚的に良いつながりを有すること

生活感と居心地 歩行者のいる視点場に居心地のよい生活の
場が生き活きと感じられること



日本の景観との違いは
どのようなところか。



電柱がまとまりをなして壁のように目立ってしまう

良好な街並み景観のポイント

見晴らし 遠景と近景（視点場：風景を見る場所）が視覚的に良いつながりを有すること

囲まれ感 道路をはさむ両側の街並みが、視覚的に良いつながりを有すること

生活感と居心地 歩行者のいる視点場に居心地のよい生活の場が生き生きと感じられること



地域の特徴が感じられる 街並みの景観づくり

新しいまちの姿へと変貌しても、和の伝統的趣を残したい

- ◆ 将来のイメージを描いてみて共有する
- ◆ それぞれの敷地や建物の個性を残しながら、古い建物を含め周りの建物に気を遣う「景観のマナー」
- ◆ 無理な形態の統一はしないが、地域の特性を共通に継承し、秩序を生む景観の多様性と秩序の共存



高さと同口の分節化による宿場町のような人のスケール感にあった街なみの創出
フレームの強調や、細かなたて棧の手すり・格子を用いた開口部の工夫による和の知恵を活かした秩序ある街なみのデザイン
和の素材を想起する色彩による落ち着いたデザイン
街道に面した積極的な緑化
1階部分のもてなしの空間づくり
街なみは2階までの外観でつくります。

大山街道街並み作法集～おすすめデザイン集～（川崎市）

景観の対策を、地域特有の課題と併せて解決をめざす



地域の子どもたち・高齢者が歩く空間が乏しい
⇒安全空間をつくる



賑わいをつくる滞留空間と道具

- ・縁台、屋台、パラソル
 - ・カウンターテーブル、プランター付き屋台・ベンチ
 - ・コンテナ樹木
- ⇒固定でなく、**可動式のものが彩る**

八王子西放射線ユーロード

店先空間、緑の乏しさが課題 (界隈緑化事業)

全国都市緑化フェアの開催と連携

専門家の関与 (店舗の個性に合わせつつ、統一感のあるプランター緑化)



商店街に賑わいと緑を

専門家と連携し
他の地域にはない特徴をつくる

行田市の取組 (八幡通り) から 感じられる景観づくりの特徴



行田市八幡通り
古い建物にあわせた店舗等の外観改修

かつての賑わいを
想いながら景観を継承

景観づくりのポイント：

もとの建物の特徴を何かしら残して継承する
建物の色調などは、周辺と**緩やかに**合わせていく【協調・連続性】
のれんや看板は専門家のデザイン力を借りる【出会い】

古民家を残すことにも趣がある一方、
更新する場合も【継承】を意識すると、懐かしさとおしゃれで清潔な感覚が共存

※住宅や商店の景観は、そこに暮らす人が地域に伝えるメッセージとなる



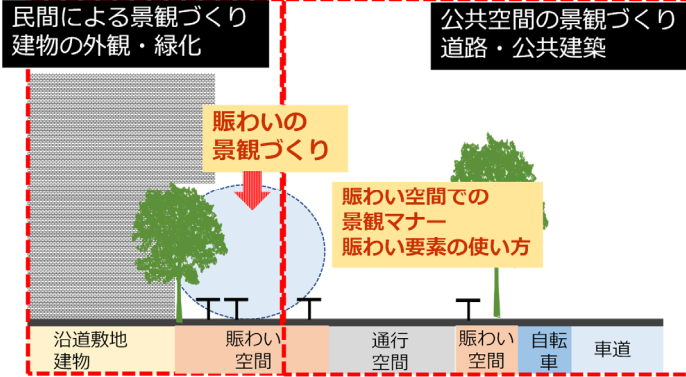
交流や賑わいを促す景観づくり

景観づくりと賑わい創出を連動させる

はちまんマルシェ
行田花手水

景観づくりのポイント：

通りに景観づくりの核となる交流の場
皆で取り組める文化的な仕掛け
※花木・花器・照明・店舗装飾



官と民の連携で
創出した街路景観に
どのような
交流や賑わいを
誘致できるか

景観が整っても
寂しいのでは
意味が無い

小括～まちの景観づくりで大切なこと

- **協調する**
地域のつながり（住民の協調、民間と行政の助け合い）の中で、通りや地区の景観のまとまりをつくる。
まとまりとは、建築の個性はあっても地域独自の特性を共有すること
 - **問題を解決する**
景観づくりを通じて、コミュニティの課題を解決する。
 - **継承する**
まちの新陳代謝の中で、老朽化したものが更新されるとしても、もともとの景観の特徴を継承する工夫が必要。
 - **デザイナーに任せる**
専門家の力を最大限活用して、景観をデザインする。
 - **共有する**
地域が目指すべき景観の将来イメージを描いて共有する。
- ◆景観づくりの仕上げは、賑わいや交流を創出すること